

日本語課外補講報告 (2019年4月～2020年3月)

田中 信之

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2019度は、前期(2019年4月～9月)と後期(2019年10月～2020年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2019年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものがある。本稿では2019年度に五福キャンパスで国際機構が実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが16人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが38人(うち4人は初級クラス、8人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが30人(うち8人は中級クラスも同時に受講)、計72人が日本語課外補講(ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コースを含む)を受講した。72人の在籍身分別の内訳は、大学院生22人、特別聴講学生28人、研究生6人、特別研究学生6人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)6人、特別研究員1人、外国人研究員3人である。国・地域別の内訳は、中国28人、オランダ10人、台湾、タイ各5人、ベトナム、ロシア各4人、インド、韓国各3人、フィンランド2人、アメリカ、インドネシア、スロバキア、チリ、バングラデシュ、フィリピン、ベルギー、ラオス各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部19人、人間発達科学部15人、人文学部13人、経済学研究科8人、経済学部7人、医学薬学教育部3人、芸術文化学部、人文科学研究科各2人、工学部、芸術文化科学研究科、人間発達科学研究科各1人である。

後期は、初級クラスが31人(うち1人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが19人(うち6人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが53人(うち6人は中級クラスも同時に受講)、計96人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。96人の在籍身分別の内訳は、研究生28人、大学院生27人、特別聴講学生18人、特別研究学生9人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)9人、研究員4人、研究生(教員研修留学生)1人である。国・地域別の内訳は、中国59人、ベトナム9人、韓国7人、インド、ブラジル各4人、タイ3人、ロシア2人、インドネシア、台湾、チェコ、トルコ、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、マレーシア各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部19人、工学部17人、人文学部15人、経済学研究科11人、経済学部9人、人間発達科学部、人文科学研究科各7人、医学薬学教育部5人、都市デザイン学部、人間発達科学研究科各2人、芸術文化科学研究科、水素同位体科学研究センター各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、ライデン大学からの交換留学生を除き、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照のこと)。ライデン大学からの短期留学生は、ライデン大学短期日本語研修プログラム用に開講されている科目(特別指導)以外に、日本語課外補講中級クラスで開講されている科目をライデン大学短期日本語研修プログラムの科目として受講している(詳細は、ライデン大学短期日本語研修プログラム報告を参照のこと)。

3 授業担当者

2019年度前期は、国際機構専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、および、非常勤講師5人（高島智美、中河和子、水田佳歩、要門美規、横堀慶子）、2019年度後期は国際機構専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、および、非常勤講師7人（高島智美、田上栄子、中野香保里、藤田佐和子、松岡裕見子、水田佳歩、要門美規）が授業を担当した。コーディネーターについては専任教員の田中信之が担当した。

4 授業日程

前期は2019年4月11日（木）～8月2日（金）を授業期間とした。曜日調整のため、5月9日（木）と7月12日（金）は月曜日の授業を行った。後期は2019年10月7日（月）～2020年2月7日（金）を授業期間とした。曜日調整のため、10月16日（水）と11月7日（木）は月曜日の授業、10月25日（金）は火曜日の授業、12月24日（火）は金曜日の授業を行った。また、12月25日（水）～1月6日（月）は冬季休業、1月17日（金）は大学入試センター試験準備日のため、2月4日（火）は曜日調整のため、と休講とした。

オリエンテーションは、前期は4月5日（金）、後期は10月4日（金）に開催した。前期は専任教員4人（副島健治、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和）、後期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際機構のホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際機構棟談話室に掲示した。国際機構のホームページでは、時間割や授業概要（日本語、英語版を用意）の閲覧、そして、受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようにした。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人と国際機構専任教員が面談し、受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、各クラスの担当者（初級クラスは田中信之、中級クラスは副島健治、上級クラスは濱田美和）が面談を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期は週36コマ、後期は週35コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2019年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス	
月	1		文法 A1（横堀）		
	2		文法 A1（横堀）	表現技術 C1（濱田）	
	3			聴解・会話 B1（横堀）	
	4			漢字 B1a（濱田）	
火	1		文法 A1（要門）	文法・読解 B1a（副島）	
	2	生活日本語 A1a（バハウ）	文法 A1（要門）	文法・読解 B1a（副島）	漢字 C1（濱田）
	3		漢字 A1（高島）	漢字 B1b（水田）	聴解 C1（要門）
	4				

水	1		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1a (中河)	
	2		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1a (中河)	
	3				会話 C1 (高島)
	4				日本文化 C1 (中河)
木	1		文法 A1 (横堀)	文法・表現 B1a (要門)	文法 C1a (濱田)
	2	生活日本語 A1b (副島)	文法 A1 (横堀)	文法・表現 B1a (要門)	文法 C1b (濱田)
	3		聴解・会話 A1 (横堀)	作文 B1a (田中)	作文 C1 (要門)
	4				読解 C1 (田中)
金	1		文法 A1 (田中)	文法・読解 B1b (副島)	
	2		文法 A1 (田中)	文法・読解 B1b (副島)	
	3			文法 B1 (田中)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2019年度後期 日本語課外補講 (五福) 時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス	
月	1		文法 A2 (中野)	文法・表現 B2a (田上)	
	2		文法 A2 (中野)	文法・表現 B2a (田上)	
	3			漢字 B2 (濱田)	聴解 C2 (田上)
	4				漢字 C2 (濱田)
火	1		文法 A2 (田中)	文法 B2 (中野)	
	2	生活日本語 A2a (副島)	文法 A2 (田中)	聴解・会話 B2 (中野)	表現技術 C2 (濱田)
	3		聴解・会話 A2 (藤田)		読解 C2a (田中)
	4				読解 C2b (藤田)
水	1		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (副島)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (副島)	
	3				会話 C2 (要門)
	4				作文 C2 (要門)
木	1		文法 A2 (田上)	文法・読解 B2b (副島)	
	2		文法 A2 (田上)	文法・読解 B2b (副島)	文法 C2 (濱田)
	3		漢字 A2 (高島)	作文 B2 (濱田)	日本文化 C2 (田上)
	4				
金	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2b (松岡)	
	2	生活日本語 A2b (副島)	文法 A2 (田中)	文法・表現 B2b (松岡)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後は「聴解・会話」、「漢字」の授業を各科目とも週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期と後期ともに週2

コマ、授業を行った。

「文法」の授業週（10コマ）では、『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱ第2版（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習、語彙テスト（前課のディクテーションを含む）も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第1週	1課～3課		第9週	28課～30課	
第2週	4課～6課	1課～6課試験	第10週	31課～33課	26課～32課試験
第3週	7課～12課		第11週	34課～37課	
第4週	13課～14課	7課～12課試験	第12週	37課～39課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	40課～43課	
第6週	19課～21課	13課～18課試験	第14週	44課～45課	39課～45課試験
第7週	22課～25課		第15週	47課～50課	
第8週	26課～27課	19課～25課試験			

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。

「生活日本語」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1回の授業で1課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「漢字」、「文法」、「聴解・会話」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目週2日2コマ連続で各4コマ、「漢字」、「文法」、「聴解・会話」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。

「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J 301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J 501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『初級日本語文法総まとめポイント20』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、初級文型の復習として整理・確認を行った。

「聴解・会話」の授業では、前期は「話すこと」に焦点を置き、ディスカッション、ショートプレゼンテーションなど、様々なタスクを行った。後期は、日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などを教材として使用し、聴解を中心に練習を行った。

「漢字」の授業では、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』Vol.1 (凡人社) を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「作文」に関しては、前期の授業では、自分の考えを、根拠を挙げて筋道を立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切かつ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。後期の授業では、『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとして、論理的な文章を書くための構成や表現を学び、練習を行った。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業は前期週1コマ、後期は週2コマ行った。「文法」の授業は前期週2コマ、後期週1コマ行った。「作文」、「聴解」、「会話」、「表現技術」、「日本文化」、「漢字」の授業をそれぞれ週1コマ行った。

「読解」の授業は、前期は「読解C1」の1科目、後期は「読解C2a」と「読解C2b」の2科目を設けた。「読解C1」「読解C2a」は、協働的な活動を通して批判的に読む能力を身につけることを目標とし、テキストの理解を深め、クラスメイトへの理解を深め、自分自身の考えを深め、自分のことを振り返ることができるように練習を行った。「読解C2b」は『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。

「文法」の授業では、前期は「文法C1a」「文法C1b」のレベル別の2科目、後期は「文法C2」の1科目を設けた。「文法C1a」では『TRY! 日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)、「文法C1b」では『TRY! 日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版) をメインテキストとし、大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。後期の「文法C2」では『日本語能力試験レベルアップトレーニングN1』(アルク) をメインテキストとして、前期と同様に演習形式で授業を行った。

「作文」の授業では、実際のレポートや論文を分析しながら、論理展開の仕方、構成、表現を学ぶことで、論理的な文章を書くための基礎力を身につけることを目標年、練習を行った。同時にレポート作成上のルールも学び、自身が選んだテーマでレポートを書き進め、そのレポートを提出した。

「聴解」の授業では、聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、大学生活や日常生活で出会う状況での会話力を伸ばし、より適切に会話の目的が果たせるように練習を行った。また、専門において必要な口頭発話能力を伸ばす活動(発表、スピーチ、討論など)を行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2 (凡人社) を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

6 試験

初級クラス「文法」「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験である。初級クラス「生活日本語 a」及び「生活日本語 b」では中間試験と期末試験を、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・表現」「文法」「聴解・会話」「作文」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法・読解」は3回の定期試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。

上級クラスでは、「読解 C 2b」「文法」「聴解」「表現技術」はそれぞれ期末試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「読解 C 1」「読解 C 2a」「作文」「日本文化」は期末レポートを、「会話」「表現技術」「日本文化」は発表を課した。

7 カリキュラムについてのアンケート結果

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施したが、ここではカリキュラムに関するアンケート結果をまとめる。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が複数の科目を受講している場合も、1回のみ回答する形とした。表4に前期、表5に後期の結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述したとおりに掲載している。

表4 前期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者 20人）

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者(16人) ・オリエンテーションの掲示を見た(5人) ・専門の先生にきいた(5人) ・国際機構の先生にきいた(2人) ・事務の人にきいた(1人) ・友だちにきいた(3人) ・その他(0人)
日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション欠席者(5人) ・専門の先生にきいた(2人) ・国際機構の先生にきいた(0人) ・友だちにきいた(3人) ・事務の人にきいた(0人) ・その他(0人) ・無回答(0人)
2. どのクラスに出席したか	初級：6人 中級：5人 上級：10人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい(20人)：初級6人，中級4人，上級10人 多くしてほしい(0人) 少なくしてほしい(1人)：中級1人
4. 授業科目の希望	今のままでいい(17人)：初級6人，中級4人，上級7人 新しい科目を作ってほしい：中級2人，上級2人 →見学，発音，今はわからない
5. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい(5人)：初級1人，中級2人，上級2人 専門の時間割がわからないので答えられない(5人)：初級1人，中級2人，上級2人 午前1・2限(6人)：初級2人，中級1人，上級3人 午後3・4限(4人)：初級2人，上級2人 その他(1人)：上級1人…(月金以外です)

その他

- ・ All my Japanese teachers are so professional and patient, I will try my best study harder than last semester. (初級)
- ・ もっと日本文化を勉強したい。(中級)
- ・ 先生はとってもいいです (中級)
- ・ ときどき専門のゼミがあるから、授業にいけないから、すみません。(上級)

表5 後期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者 22 人）

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか（複数回答）	オリエンテーション出席者（16人） ・オリエンテーションの掲示を見た（3人） ・専門の先生にきいた（6人） ・国際機構の先生にきいた（2人） ・事務の人にきいた（3人） ・友だちにきいた（5人） ・その他（0人） ・無回答（1人）
日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答）	オリエンテーション欠席者（6人） ・専門の先生にきいた（3人） ・国際機構の先生にきいた（2人） ・友だちにきいた（0人） ・事務の人にきいた（1人） ・その他（2人）：前学期にオリエンテーションに参加しました1人、授業を取ったことがあります1人 ・無回答（0人）
2. どのクラスに出席したか	初級：11人 中級：5人 上級：6人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい（20人）：初級10人，中級4人，上級6人 多くしてほしい（1人）：初級1人：ちょうかいのじかんをながくしてほしい。 少なくしてほしい（1人）：中級1人
4. 授業科目の希望	今のままでいい（21人）：初級11人，中級4人，上級6人 新しい科目を作してほしい（1人）：最近のこと，ニュース，テレビ番組についてのクラスがあつてほしいです。中級1人
5. 来期の授業時間帯の希望（複数回答）	いつでもいい（1人）：中級1人 専門の時間割がわからないので答えられない（10人）：初級5人，中級1人，上級4人 午前1・2限（7人）：初級4人，中級2人，上級1人 午後3・4限（2人）：初級3人，中級1人，上級1人 その他（1人）：上級1人…（帰国予定）

その他

- ・授業の時間の希望は午前中がいい。午後は専門があります。（初級）
- ・Each lesson should have 2 days to learn.（初級）
- ・Listening skill should more practice.（初級）
- ・日本語をべんきょうするのはたのしいです。（中級）
- ・今回のコースはすばらしいと思います。そのおかげで研究を進めることができるようになったと思います。（上級）

オリエンテーション出席者は例年どおり，約7割で専門教員や国際機構教員，事務から情報を得ている。また，授業科目数の希望や授業科目の希望を見ると，現状を満足していることが窺える。ただし，聴解の授業数を増やしてほしい，時事的な話題を扱うクラスを新設してほしいなど，少数の意見も耳に留めておかなければならない。授業時間帯については，「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。

8 おわりに

今年度後期は受講者数が96名と，100名に届くほど増加した。その一方で，一昨年度より授業数が減少しており，受講生のレベルに合った授業を実施することが難しくなっている。授業アンケートからは，現状の授業数や受講科目に否定的な意見は見られないが，学習者のレベルやニーズを把握し，初級・中級・上級の各クラスの適切な授業数，授業科目を常に模索していかなければならない。